

第14回地域バス交通活性化セミナー

2017年3月7日

住民・事業者・行政が協働する 地域コミュニティ交通のありかた

平安女学院大国際観光学部 井上 学

はじめに: 自己紹介

- 専門は地理学...限られたリソースでどのように最適化が図られているのかネットワークや運営主体から検討
- 本研修会やバスシンポジウム、自治体の会議等に参加

キーワード

- ・低コストでも利便性は向上する
- ・ヤバすぎ、カワイイ、カッコ良すぎを目指そう
- ・ライフスタイルや価値観の転換
- ・情報案内と人間関係の充実

本日のテーマ

- 公共交通の運営には住民参加が欠かせない

そのためには・・・

- 地方自治体
 - まちづくりにおける公共交通の位置づけ
 - 調整役と情報の収集・発信
- 事業者
 - 顧客満足度の向上
- 住民
 - お願いモードからの脱却

公共交通に住民参加が必要とされる理由

- バスが民間で運営できなくなった
...廃止代替バスの運行
 - 交通空白地域の解消が求められた
...コミュニティバスの運行
→利用されないのにさらにサービスの充実が求められる
採算ベースに乗らないサービスが拡大される
行政サービスだから赤字でもOK・補助金でどうにかなる
- ◆補助金によるモラルハザード

超高齢社会の到来

- 多くの地域で人口が減少・高齢化する
これまで活気があったのは団塊・団塊ジュニア世代の影響
- 運転免許返納の時代
- 人口の減少≒税収の減少(補助金の減少)
「国土のグランドデザイン2050」
1966年(65歳以上人口が約10%)
2050年(65歳以上人口が約40%)の予測
- 補助金で何でもできる時代ではない

公共交通をどのように運営していくか

- 子育て世代の定住促進
- 高齢者に関わる費用の増大
- バスの利用者は減る可能性
→民間でうまくいかなかったサービスをどのように維持・向上したらいいのか？
- 従来のモデルや発想からの転換

公共交通と住民の関係

- 交通政策基本法：2013年12月
第十一条（国民等の役割）
 - ・地域住民が公共交通の確保に向けて自分たちができる活動に主体的に取り組むよう努める。
 - ・交通に関する施策に協力するよう努めることで、公共交通の確保に積極的な役割を果たす。

公平から公正に

- ある地域にバスが運行されると
→他の地域でも「運行してほしい」(乗らないけど)
 - 行政サービスだから「公平性」を重視
→同じサービスを等しく供給するよりも地域に応じたメニューに
 - 住民参加の会議
参加者はバスに乗らない人ばかり
いつか乗る＝乗らない
あれこれ意見を述べて「あとは行政・事業者よろしく」
- ◆声の大きい人(地域)の意見が採用
- 本当にサービスを求める人の所には届かない

汗かく住民の存在

- 行政域が広い自治体ほどバスを走らせるのに躊躇（收拾がつかなくなるから）
- 自分たちでバスが運行できないか？
できる限りのことをやってみよう

◆NPOや住民組織による運営・行政や事業者との協働

- 生活バスよっかいち（四日市市：2003）
- 醍醐コミュニティバス（京都市伏見区：2004）
- まちづくり活性化バス「キララちゃん」（土浦市：2007）
- 陣川あさひ町会バス「バス」（函館市：2012）
- 明星町レインボウバス（宇治市：2014）など

汗かく地域がバスを動かす

- 宇治市明星町「レインボウバス」
- 2014年4月運行開始

明星町

人口約2,400人
(約840世帯)



汗かく地域がバスを動かす

◆宇治市のりあい交通事業の背景

- 地域アンケートから見えた利用者のモラルハザードと運行支援に対する可能性

全世代が「いつか乗るかもしれない」と回答→一生乗らない補助金を拠出しても利用者は増加しない

乗らないけれども私は汗をかく・バスは地域の資産

- バスに乗らない人もいつかは乗るかもしれないならば保険と一緒に仕組みで運営可能では？
- バスは地域の資産と考えるならば地域で運営することが可能では？

汗かく地域がバスを動かす

- 宇治市のりあい交通事業

- 運行経費に対する補助

- 運賃収入(=利用者数)が高いほど補助率も高い

- 利用者数が多いほど地域の負担額は小さくなる

- バス利用のインセンティブ+本当に必要とされている路線に補助金を投入できる

バス事業者に支払う金額（一定）

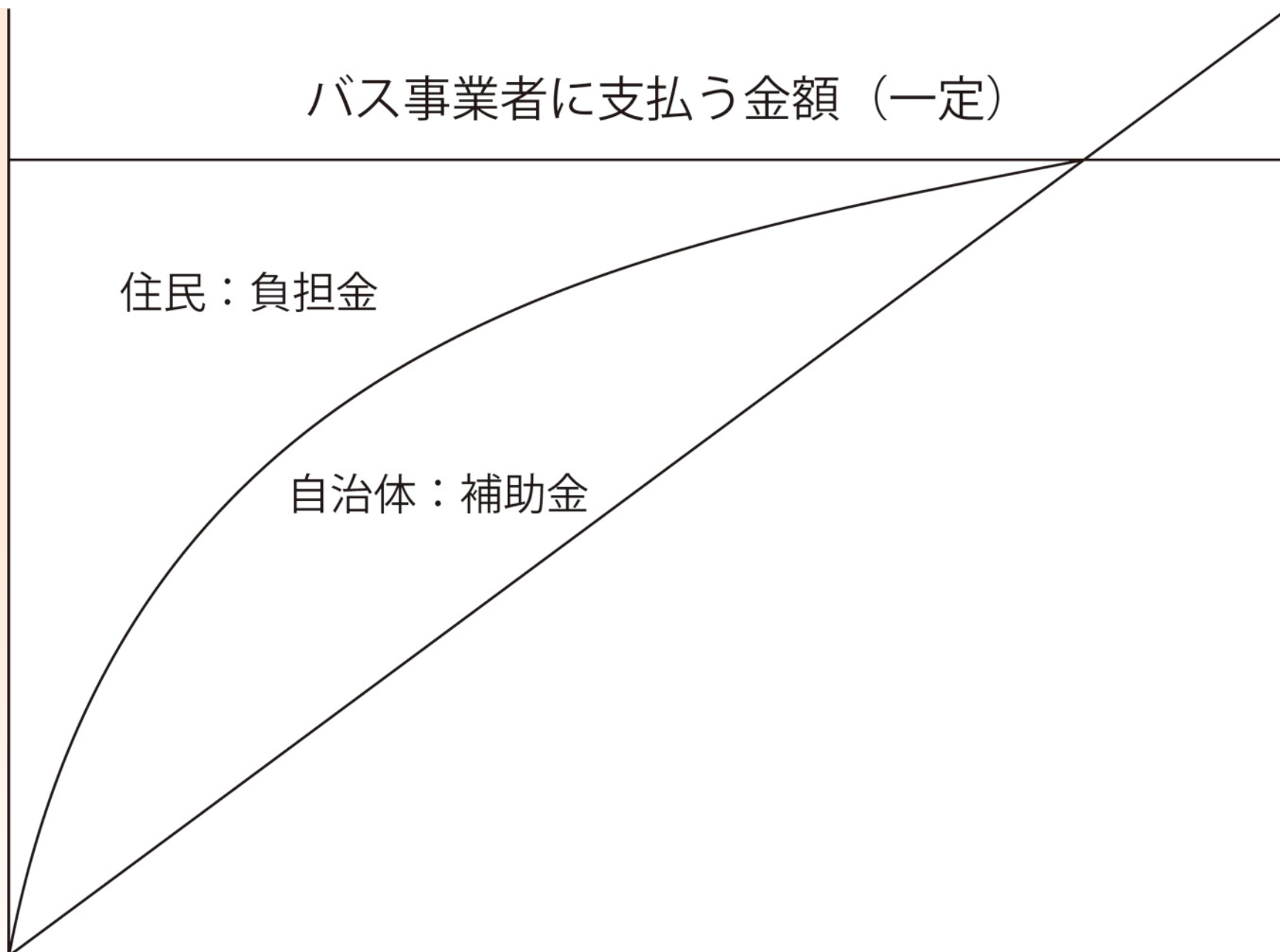
住民：負担金

自治体：補助金

低

利用者数（運賃収入）

高



汗かく地域がバスを動かす

◆どのようにして合意形成にいたったか

- 利用状況の「見える化」
とにかく住民・事業者・行政で毎月話し合う
- 文句をいう場から「私達にできることはなにか」
考える場に
- キーパーソンの存在
- バスは本当に必要だよねと意識共有の勉強会
- 行政担当者は住民と事業者の調整役に徹した

汗かく住民の存在

◆その後の状況

- 利用者数は劇的に増加しないが赤字額は減少
→赤字が出るのは必須であるがいかにその金額を減少させるか
- 案内情報を充実(観光案内所・バス停)して地域外の利用者を獲得

◆明星町レインボウバスから見たこと

- 自治会がひとつであったので合意形成しやすかった
- 目的地からの距離によって意識の違いがある
- 「お願いモード」の脱却が必要

汗かく地域がバスを動かす

- 「陣川町あさひ町会バス」(函館市)
地元自治会が中心となってバスを運行
2012年運行開始・・・2015年一般路線バスに



汗かく地域がバスを動かす

- 函館市陣川町の概要
- 人口約3,000人(約1,000世帯)
- 郊外型のニュータウン(昭和60年代から入居開始)

- 路線バス

五稜郭・函館駅方面に

平日8往復

土休日6往復



汗かく地域がバスを動かす

- アンケートでは採算ラインがとれそう
- 1日あたり200人が採算ライン
 - 実際の利用はその半分以下からスタート
- 利用者の増加と採算ラインの向上を住民が考える
 - 路線の変更と利用者の説得を住民が行う
- 利用促進を住民が行う



「Jバス」をご利用のお客様

みなさん、こんにちは。(株)西武建設運輸と申します。
 私どもは、陣川町の北海道東照宮さん横に、約3千坪の
 空地进行しております。

この地域は『市街化調整区域50戸連たん地域』という
 規制された地区ではありますが、できる限り地域の活性化
 に役立てられるよう、働きかけたいと考えております。

～みなさんなら、どんな風に活用したいと考えますか？～
 是非、地域の皆様のご意見・ご要望をお聞かせ下さい。
 メール又はご郵送でお寄せ下さい。

- ◆メール fudousan21@seibukensetsu.com
- ◆住所 函館市亀田中野町219番14号
 (株)西武建設運輸 担当/高松

（物件概要）

- ◇所在地 函館市陣川町81-101, 105 ◇面積 10,094㎡(3,053,432坪)
- ◇地目/雑種地 ◇用途地域/市街化調整区域50戸連たん地域
- ◇建ぺい率/50% ◇容積率/100% ◇図バス/「上陣川」徒歩4分
- ◇飲用水/公営 ◇ガス/個別プロパン ◇電気/北海道電力
- ◇汚水/汲取又は浄化槽設置 ◇雑排水/U字排水 ◇雨水/U字排水
- ◇接道/北西側、公道(未建設) ◇幅員/6m ◇販売価格/1億円

■ 区画



■ 周辺地図



Jバスは一年間の実証実験

地域を走るJバスは、実証実験バスです。
 利用者が少なく、売り上げも上がらないと実証期間は中止となる
 可能性があります。

車がある世帯が多いと思いますが、週末や日曜日など
 少しでもご利用いただければ多くの方が助かります。

「バスがあって嬉しい」との声の多くは高齢者です。



見送、ご協力をお願いします。

平成24年 4月1日より実証運行中（一年の期間限定運行）
 ご利用、ご協力をお願いします。

陣川あさひ町会バス委員会

児童館まで行こうよ！ 小学生限定回数券できました

子ども達が通っていた陣川児童館が、今年3月にオープンしま
 した！

そこでJバスでは小学生限定の回数券を作りました！

公園や児童館など「陣川ワンストップ」までの回数券です。

かならず、学校から帰ってから使ってくださいね！

4枚セットで¥500（2ヶ月間限定）

往復2回券大ますよー！ 陣川あさひ町会館のみで販売です。

平日 午前1時～午後5時まで 問い合わせ（31）-8855

※必ず学校から帰ってから使ってくださいね！



平成24年6月1日より販売予定！

陣川あさひ町会バス委員会

ルートと時刻表を変更します。

1. 本線区間の延長を陣川町内へ延伸し、ルートを変更します。（陣川は陣川駅）
2. 冬ダイヤ中に実施し、上陣川は平日のみ運行予定です。
3. 上陣川駅より 陣川は 10時30分発のバスのみ運行予定です。
4. 3人乗り回数券・回数券・回数券 1枚限り、Jバス専用で販売しています。
5. ばら回数券 1枚 ¥200 陣川あさひ町会館にて販売しております。

行先	1月				2月				3月			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
陣川	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
上陣川	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
東照宮	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
陣川	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
東照宮	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
陣川	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
東照宮	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
陣川	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
東照宮	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
陣川	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
東照宮	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
陣川	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00
東照宮	8:45	9:00	9:15	9:30	9:00	9:15	9:30	9:45	9:15	9:30	9:45	10:00



Jバス 家庭実証運行 陣川あさひ町会バス

陣川あさひ町会バス運営委員会
陣川町29-55
陣川あさひ町会館内

私たちの陣川、
Jバスを応援しています！

北海道東照宮	三浦 恒雄	田中 一件	小笠原知子	山本 志子
成田 ツキ	青森 洋子	下川郁正	工藤 裕子	古川 節子
<p style="text-align: center;">村瀬 鉄工所</p> <p style="font-size: small; text-align: center;">〒051-0812 函館市陣川町29-55</p>				
森川 昌子	沢藤 隆	横口 正		

Jバスの継続運行のため、皆様にご賛助をお願いしております。
 1口2000円で、何口でもかまいません。
 ぜひご協力をお願いします。

運行継続に皆様のご協力を！

汗かく地域がバスを動かす

- 住民
 - 従来から地域の課題は地域で解決してきた
 - 相対的に若い世代や子育て世代が多い
 - 子ども達の未来を考えている
- 住民は利用者であると同時に経営者
- バス事業者(函館バス)
 - 何でもチャレンジできる社風
 - 普段から沿線住民と良好な関係を築く
- 自治体
 - 調整役と最低限の支援のみ(補助金なし)

2つの事例からわかること

- 住民
 - お願いモードではなく自分たちで動く
 - キーパーソンの存在(アクティブシニア・子育て世代)
- バス事業者
 - 経営を考えながら住民の希望を受け止める
- 自治体
 - 調整役・何度も説明する粘り強さ
- 普段から沿線住民と良好な関係を築く
- 情報を共有している

2つの事例からわかること

- 利用状況は恥ずかしがらずに地元伝える
→急に「赤字で廃止します」は反発される
- 3者が同じテーブルで何度も何度も話し合う
初めは雰囲気は悪いが顔を合わせるうちにお互いの理解が深まる
- 行政担当者は精神的にタフな人が望まれる

バス路線を育てる

新しいバスを運行するだけが3者の協働ではない

・今ある路線についても協働する必要がある

◆モビリティ・マネジメント

- 自動車を使いこなすためのライフスタイルの転換
- 自動車の利用を否定するものではない

環境・お金・健康・事故などから自動車利用のリスクを考える

バス路線を育てる

◆地域で取り組む

- 子どもがバスとふれあい理解する機会を作る
- 子育て支援...高齢者のための政策の根底には子育て支援の視点が必要
- 子どもに公共交通を利用する習慣を持ってもらう
→公共交通の利用があたりまえの世代を育てる
10年以内で高頻度の利用者に

住民・事業者・行政の協働に向けて

- バス事業者は昔と違う
何でも無理が通る状況ではない
→住民の無理解と無理難題
 運転士不足・賃金低下・運転者の高齢化
- 補助金額が安い・利用者増加に対するインセンティブがない
→サービスは向上しない・地域の雇用が悪化
- 自治体も人が減らされて大変
- ◆ 状況の理解・・・協働のスタート

住民・事業者・行政の協働に向けて

- 乗らないバスはなくなる・人が動けばバスは動く
→沿線住民の積極的な参加・キーパーソンの発見
- 交通は派生需要
→おでかけの機会と移動を考える
- 自分たちでできることは何か考える
→地域の特徴をふまえてできることを考える
- バスはコミュニティ醸成の場
→ドライバーのファンが生まれるように

住民・事業者・行政の協働に向けて

- いつまでひと肌脱げるか
→どの点にやりがいを感じるか考える
住民組織はボランティア：無理は続きにくい
 - 初期メンバーからの交代
→新メンバーの加入
 - どんな街にしたいか
→ノイズをある程度受容できる地域が生き続けられる
- ◆現在のシステムは何年続けられるか

まとめ

- できない理由を探さない・できることを考える
- バス・鉄道という固定概念にとらわれない & 目新しい者に目を奪われない
- 隣の芝生ではなく自分の街の特徴をよく見る
- 誰かがやってはくれない → 汗かく地域が持続
- **それぞれが汗をかいたぶんだけ地域は輝く**

- ご静聴ありがとうございました

E-mail: minoue@heian.ac.jp